

問

本年4月、人口減・高齢化

率の上昇から、過疎地域の指定を受けた。23年度には、過疎対策事業債の活用で、山香荘にサッカー場建設が計画されている。

「ハコモノは造らない」との選挙公約もあり、また、町の総合計画にも大山恵みの里構想にもない。突然、4億7000万円の大金を投じてサッカー場を計画することに、町民の

なぜ、サッカー場が？

町長 ▶ 山香荘の再生策として



諸遊 議員

賛同を得ることができぬのか。これでは町民との信頼関係が結ばれなくなるのではないか。サッカー場が山香荘に必要と思うならば、次回の選挙の時に公



↑再生策が検討される山香荘

約をし、その結果を見て造ったらいのではないか。

答

町長

利用計画がある施設の建設は必要である。山香荘の再生策を検討する中で浮上してきた。本来の地域休養施設の目的を、できるだけ残しながら活用を図っていきたい。また、県サッカー協会が利用するという、10年間の指定管理の提案があり、今受けなければ将来はない。

野菜周年栽培に不安

町長 ▶ 所得を確保する

町長

〔諸遊〕

農協の営農指導員をしてきた町

長の強い思い入れで、ハウスの建設代金3分の2の町補助制度が創設された。補助率が高いということ、多くの農家の参加申込があった。

私はこのエコ農業野菜周年栽培に不安を感じる。

少量多品目で所得の確保は可能か。

〔町長〕

少量でも多品目の野菜を出荷することで、1年を通じ所得を確保していく。

〔諸遊〕

初心者が多い中で何を付けけるのか。消費者に認められるまでに何年もかかるが。

〔町長〕

今後の研修で品目、品種の動向を研究しながら各自が自主的に選定する。会員相互の栽培技術や情報交換などを通じ活動する。

〔諸遊〕

エコ農産物の農業・化学肥料の削減割合が不明瞭である。

〔町長〕

現在ある認証制度を参考にし、

検討していく。

〔諸遊〕

生産物の、町独自のシールなどを考えているのか。

〔町長〕

他の事例なども参考にしながら検討していく。

〔諸遊〕

私の経験から、アスパルをはじめ、恵みの里が契約しているスーパーなどが販売先なら必ず売りが残る。市場出荷も考慮すべきだ。

〔町長〕

売れる売れないについては生産者の自己責任である。



↑所得向上になる周年栽培を